

学術認証フェデレーションに関する取り組み

総合情報処理センター 三橋一郎

はじめに

国立情報学研究所（NII）は平成 20 年から学術認証フェデレーション（学認）というプロジェクトを実施しており、本学もこのプロジェクトに参加しています。

学認とは

学術認証フェデレーション（学認）とは、学術サービスを利用する研究機関と、サービスを提供する機関から構成された連合体で、フェデレーションが定めたポリシーを信頼しあうことで加盟機関は相互にユーザ認証の連携ができるようになります。例えば、三重大学が契約している電子ジャーナルにアクセスするには、出版社が発行する専用のアカウントで学外からアクセス出来るものもありますが、基本的には三重大学内のネットワークからアクセスする必要があります。しかし、学認に加盟すれば、同じく学認に加盟している出版社の電子ジャーナルを閲覧する場合、総合情報処理センターが発行している「統一アカウント」を用いて学外からアクセスできるようになります。

学認の現状

学認に参加すると様々なサービスと連携できます。現在提供されているサービスとしては、現状では電子ジャーナルの比率が一番高いですが、Microsoft 社が学生を対象に開発系ソフトウェアを無償で提供する DreamSpark や、大容量ファイル転送サービスなどもあり、変わったところでは無線 LAN の認証を学認対応にしている大学もあります。しかし、サービスの数は現状で 20 足らずであり（平成 23 年 3 月現在）、まだまだ参加することによるメリットが少ないということが否めません。ただ、加盟研究機関が増えないとサービスを提供する側にとってメリットが少ないということもあり（平成 23 年 3 月現在で加盟機関数 25）、「加盟研究機関が増えること」と「サービスが増えること」は、鶏と卵の関係にあると言えます。

本学のこれまでの取り組み

学認を充実したものにするために本学ができることとしては「とにかくまず参加することである」ということで本学は平成 21 年に学認の「テストフェデレーション」に加盟し、テスト用データベースを用いた試験接続を行ってきました。その結果を踏まえ、平成 22 年には実運用されているデータベースと連携して前述の様々なサービスが受けられる「運用

フェデレーション」への昇格を行いました。運用フェデレーションに昇格した後も、実際にサービスを使用するためにはサービスごとに事務的・技術的な作業が必要になりますので、そういった作業を進めてきました。

今後の展開

運用フェデレーションに参加していますが、現在学内では非公開試行の状態です。今後、附属図書館とも協働して使用できるサービスを増やした上で、本格運用に移行しようと考えています。

